

里海学習 二学期のふり返りアンケート(教師用)

【A:あてはまる B:少しあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない】

	A	B	C	D
1. 里海科年間計画を意識して計画的に実践している。	6		1	
2. 里海科でめざす児童像を意識して計画的に実践している。	4	2	1	
3. 体験活動が必要な場合, 計画に沿って取り入れている。	6	1		
4. 地域の活用について				
①地域の人材を活用して授業を進めている。	5	1	1	
②地域の施設を活用して授業を進めている。	4	2	1	
③地域の環境を活用して授業を進めている。	7			
5. 児童は意欲的に学習に取り組んでいる。	6	1		
6. 児童の探究心は高まっている。	5	2		
(理由)				
<ul style="list-style-type: none"> ・海藻の名前を調べたり覚えたりしようとしている。 ・生き物を詳しく観察することで, すみかをさらに工夫していた。 ・海をきれいに保つために何ができるかを自分たちで考えていた。 ・授業を進めていくと「なぜ?」という疑問がたくさん出てきた。 ・児童の発言から「課題をもつ→調べる→体験する→聞く→まとめる」の計画を進めることができた。 ・1学期の職業と2学期の職業を関連付けて考えをまとめたり比較したりすることで気づきがあった ・次は〇〇がしたい, 他にも〇〇が知りたい, などのふり返りが見られた。 				

△アオリイカの飼育がうまくいかず、継続的な観察ができなかった。

△フィールドワークをしたかったが、対応してあげられなかった。

△児童が現場に出向く機会がなかった。

△学びを広めることが弱い。(内容?手立て?)を検討する必要がある。

△「何のために」「どのようにして」という活動前の意識付けがもう少し必要。(1学期も同じ反省あり)

7. 児童の理解は深まっている。

4

3

(理由)

- ・海藻を触ったときの感想が豊かだった。
- ・詳しく生き物を観察することで特徴を捉えていたり、春に生き物を優しく扱えなかった子どもたちが生き物の生命を感じて、適切に扱えるようになったりしていた。
- ・海のごみはどこから来ているのかについて考える際、前単元の学習「海と川がつながっている」を根拠に「川からきている」と考える子がいた。
- ・児童の「スルメイカの解剖もしたい」との声があがり、実際に解剖しながら各器官の確認ができた。
- ・アオリイカの雌雄も準備していただき確認ができた。
- ・これまでの学びを根拠に考えることができる。(献立作り・食物連鎖・防災)
- ・深まっている面もあるが、見方が広がっている感じがする。

△単元と単元、学年間のつながりを意識し、年間を通して「めざす児童像」へ近づける、という教員側の準備がもう少し必要。

△個々の活動はインパクト大なのに、単発の理解にとどまっているように思う。

8. 成果(○)と課題(△)

○飼育活動を通して「生き物には生命があること」に気付いたり「生き物を大切にする心」を持ったりす

ることができた。

○自分たちで「海を守るために何ができるか」をテーマに話し合いポスターを完成させることができた。

○海にごみがあると生き物も人も困ってしまうことを児童が理解できた。

○イカの生態観察は興味付けになり、大きなメリットがあるからすばしい。

○イカ料理を作って食べることができてよかった。

○里海研と学担との打ち合わせが充実してきた。外部と協力するものは全部指導計画を作成できた。

○子どもの学習意欲を高めることができた。

△スタンダードでは11時間の設定だが、実際の時数を大幅に上回り他の単元に影響した。

△川から本当にごみが来ているのかを検証できなかった。→3学期に実施予定

△他校との交流の場を設けることができなかった。→児童は「やりたい」と話すが期待に浴えなかった

△金大や水産試験場などの、イカの研究の様子をみせてあげたかった。

△世間に広める方法を検討する。→イカす会を利用したい。

△校外学習の計画を2週間くらい前に出せないか。

9. 来年度へのカリキュラムの見直し案

(もっとこうしたらいいのでは?こんな活動を入れるといいよ...など何でもお書き下さい。)

1年生・・・学期末と海開きが同時期のため海水浴は難しい。

1年生時に「海藻+生き物比べ」をする。九十九湾の生き物を知っている状態にする。

2年生・・・1年生のふり返りからスタートし、課外活動の回数を2回にする。

(生き物採集・すみかの材料集め・お別れ会)

3年生・・・小木の町の海岸清掃場所をもう一か所増やすとデータが増えて良い。

4年生・・・3学期に環境に関することに触れられる学習があると5年生へのつなぎになってよい。

5・6年生・・・理科や社会などのまとまって里海科の時間がとれるといい。

専科や級外が担当したときの配分が課題。

全学年・・・めざす児童像へ近づけるために、各活動でどんな力を発揮させるか育てるかを検討する。

(活動を増やしたり変えたりするのではなく)

10. その他

イカす会の利用・・・4・5年生

学習の成果を発表したり、成果物を配布したりできると良い。

体験や見学ありきではなく、校内でできるものや里海研と協力する活動や学習がいろいろあっていい。

校外学習をするときに、事前指導や事後指導をしようとする週1で時間が足りないようにも感じる。